



# 木曾海道六拾九次を辿って中山道を旅してみた —旅人ミーモくんとめぐる中山道— 和田宿～深谷宿 編

## 《中山道とは…》

江戸時代、江戸と京都を結ぶ主要街道として整備されたのが中山道でした。慶長5年(1600)、天下分け目の「関ヶ原の戦い」に勝利した徳川家康は、いち早く街道の整備に着手し、翌年の慶長6年(1601)には東海道を、そして慶長7年(1602)には中山道を整備します。中山道には69の宿場が設けられ、人や物、情報や文化などが往来しました。この中山道は、東から現在の東京都、埼玉県、群馬県、長野県、岐阜県、滋賀県、京都府の1都6府県をまたぎ、総延長は約534kmに及びます。

## 《広重・英泉の「木曾海道六拾九次」シリーズより…》

当館では、平成8年(1996)の開館以降、中山道の宿場町として、これまで「浮世絵の世界展」「中山道本陣展」「中山道美濃十六宿展」「江戸時代の旅行展～旅行用心集～」「弥次・喜多の旅 道中記でたどる中山道の旅展」「歌川国芳の描いた木曾街道六十九次」「道中記 江戸時代の旅ガイド」「岐阜路安見絵図を辿って、電動アシスト付自転車で中山道を走ってみた！」など、さまざまな視点から“中山道”を紹介してきました。

中山道といえば、四季折々の美しい風景はもちろんのこと、食や文化、そして、そこに暮らす人々の生活などから、当時の風情を今も感じることのできる貴重な文化遺産であり観光資源でもあります。

令和2年度の当館特別展では、江戸時代の浮世絵作品「木曾海道六拾九次之内」シリーズより、当時の浮世絵のモデルとなつた場所が一体どこなのか…実際にその地を訪れ、その風景を目で見、感じ、あるいは地元の方々にお話を伺ながら全力取材をおこない、特別展 広重・英泉の「木曾海道六拾九次を辿って中山道を旅してみた－旅人ミーモくんとめぐる中山道－ 伏見宿～下諏訪宿編」と題し、中山道沿いに69ある宿場のうち、伏見宿(岐阜県可児郡御嵩町)から下諏訪宿(長野県諏訪郡下諏訪町)までの22宿について紹介しました。そして今回、令和3年度はその続編にあたる和田宿(長野県小県郡長和町)から深谷宿(埼玉県深谷市)までの20宿と間の宿である茂田井宿(長野県佐久市/立科町)を紹介いたします。

## 《旅人ミーモくんとともにめぐる中山道》

「江戸時代の浮世絵を通して…」という切り口から、歌川広重と溪斎英泉が描いた往時の中山道の風景を現代の風景と重ね合わせることで、中山道の歴史と変遷、そして中山道の現代を知っていただこうとするものです。本特別展を通じて中山道の魅力を感じ、御嵩町のシンボルキャラクター「旅人ミーモくん」とともに中山道を巡った気分を味わっていただければ幸いです。



溪斎英泉「木曾街道 倉賀野宿 烏川之図」  
(国立国会図書館デジタルコレクション)



溪斎英泉「木曾街道 倉賀野宿 烏川之図」モデルの地(推定)  
(群馬県高崎市)

## 展示ガイドツアー

特別展の開催期間中、中山道みたけ館職員が展示内容を解説します。

**日 時**：毎週日曜日 午後2時から(30分程度)

**定 員**：10名程度(先着順。事前申し込み不要)

**参加費**：無料

**受 付**：当日午後2時まで 2階郷土館フロアにて

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては中止する場合があります。

※参加する際には感染症対策をお願いします。



御嵩町  
シンボルキャラクター  
「ミーモくん」  
(旅人風)

- 和田宿
- 長久保宿
- 芦田宿
- 望月宿
- 八幡宿
- 塩名田宿
- 岩村田宿
- 小田井宿
- 追分宿
- 沓掛宿
- 輕井沢宿
- 坂本宿
- 松井田宿
- 安中宿
- 板鼻宿
- 高崎宿
- 倉賀野宿
- 新町宿
- 本庄宿
- 深谷宿